

中国：GDP（2016年1-3月期）

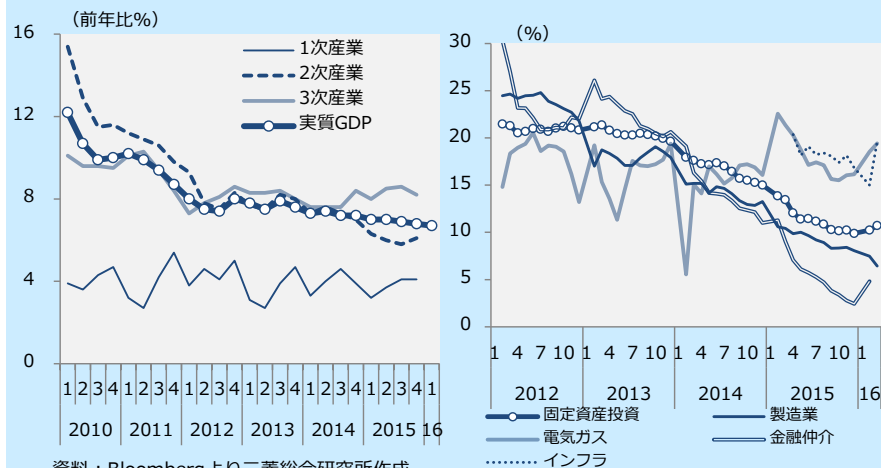
—鈍化傾向が続くが、インフラ投資が下支え—

MRI Daily Economic Points

April 18, 2016

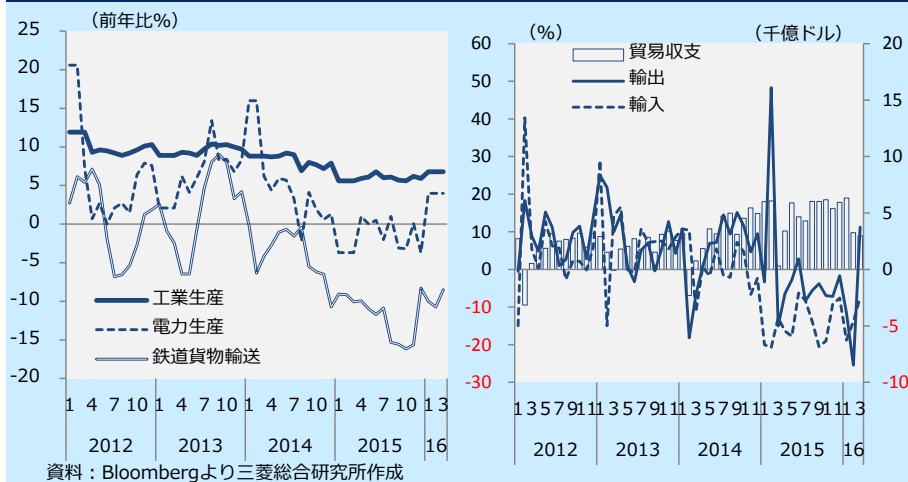
実質GDP

投資



生産

貿易



評価ポイント

今回の結果

- 中国国家統計局によると、中国の16年1-3月期実質GDPは、前年比+6.7%と10-12月期の同+6.8%から伸びが鈍化した。成長率は7年ぶりの低水準となったものの、政策効果による下支えもあり、大幅な成長鈍化は免れている。
- 1-3月期の固定資産投資は、前年同期比+10.7%と前期(同+8.9%)から伸びが加速している。製造業は同+6.4%(前期同+7.3%)と伸びが鈍化したものの、電気ガスやインフラで投資が増加。企業債務拡大で製造業を中心に投資の下押し圧力は高まっているが、政府のインフラ投資拡大が投資を下支えしている。
- 1-3月期の生産も、前年同期比+6.8%と前期(同+5.9%)から伸びが加速。電力生産は同+4.0%とプラスに転換、鉄道輸送も前年比のマイナス幅が低下した。
- 一方、1-3月期の小売売上高は、前年同月比+10.3%と前期(同+11.3%)から伸びが低下。ただし、15年10月から実施している小型車向け減税措置の影響で自動車消費が個人消費を牽引しており、引き続き高い伸びが続く。
- 輸出は、春節の影響から3月に大きく増加したものの、1-3月期は前年同期比▲9.7%(前期同▲5.2%)と低調に推移している。

基調判断と今後の流れ

- 中国経済は、引き続き緩やかな鈍化傾向が続いているものの、政府のインフラ投資拡大が成長を下支えしている。
- 中国政府は、3月の全人代で、第13次5か年計画と2016年の目標を掲げ、2016年～2020年の5か年の成長目標を年率+6.5%、2016年の成長目標を前年比+6.5～7.0%と設定した。
- その中で、鉄鋼(生産能力:12億t)を今後5年間で1～1.5億t、石炭(同:51億t)を5億トン削減することを表明。また、法人税減税などで財政赤字を対GDP比▲3.0%(前年:▲2.4%)に拡大させることも示した。中国政府としては、サプライサイド改革を進め、中長期的に安定した成長を実現することを目標にしている。
- 先行きは、過剰生産能力削減もあり、しばらくは成長の鈍化傾向が続くと見込む。今後5年間、持続的な成長を実現するためには、5か年計画最初の年である2016年に財政政策による景気下支えを行い急失速を回避しつつも、過剰生産能力削減を大胆に進めていくことが必要だ。